

校園長室から



学校教育目標

共に学び共に伸びる子ども

- ・いのちを大切にできる子ども
- ・だれとでも仲良く協力し合う子ども
- ・意欲をもち学習する子ども
- ・ねばり強くはたらく子ども

令和7年12月18日 第85号

クリスマスの思い出

先日の集会で「クリスマスとお正月、どちらが好きですか」と尋ねました。
「私は断然お正月です」と言いましたが、その理由は、置いておくこととして、クリスマスの思い出を振り返りたいと思います。

昭和のクリスマスは、今のハロウィンのようなもので、「なんでそんなお祝いをせなあかんねん」という大人が多く、今ほど盛り上がることは、ありませんでした。それでも、近所のスーパーでは、クリスマスケーキが売られていました。ケーキと言っても今ほど種類はなく、白いバターケーキぐらいで、時間がたつと、白い部分に亀裂が浮かんで、なんとなくさみしい感じになっていきます。

クリスマスが終わっても売れ残ったケーキは、半額に、その翌日に残っているものは、さらに半額。そうなると小学生でも手の届く値段になります。悪友とおこづかいを握りしめてケーキ売り場へ。二つずつ買って近所の公園へ。一つは、ケーキの上の細工をとって、悪友の顔にぶつけます。当然私の顔にもケーキをぶつけるというか、押し付けてもらいます。二人とも顔中ケーキだらけ。その顔のまま残った綺麗なケーキを頬張る。至福の時間でした。

一人暮らしをしているころのクリスマス。

一本の映画を見るようにしていました。イギリスの作家、ディケンズの「クリスマスキャロル」を基にした、『素晴らしきかな、人生』という古い映画。

主演のJ・チュアートもかっこいいのですが、その話の展開が素晴らしい。あえてストーリーは語りませんが、是非ともクリスマスに家族で見てもらいたい映画です。

最後は、滂沱(ぼうだ)の涙を約束します。